

note、アジア最大のグローバルカンファレンス SusHi Tech Tokyo 2026のセッション記事化を支援 語られた知見を、検索にもAIにも届くテキスト資産に

note

アジア最大グローバルカンファレンス のセッション記事化を支援

noteは、アジア最大のグローバルイノベーションカンファレンス「SusHi Tech Tokyo 2026」（2026年4月27日～29日、東京ビッグサイト）のセッション記事化を支援します。AI編集アシスタント型SaaSを提供するStoryHub社と連携し、約15～20本のセッションを記事化。SusHi Tech Tokyoの公式noteアカウントに準備が整い次第、掲載される予定です。

出展スタートアップ770社、参加者6万人を擁する同カンファレンスのセッション内容が、従来の動画に加えて、テキストでも読めるようになります。また、カンファレンスの成果を、SusHi Tech Tokyoが長期的に発信し続けられる資産にもなります。

背景

SusHi Tech Tokyoは、Sustainableな都市をHigh Technologyで実現することを掲げ、世界中からスタートアップや投資家、大企業、大学などが集まるアジア最大のグローバルイノベーションカンファレンスです。3日間で語られる知見を、会場にいた人びとの記憶にとどめるだけでなく、記事として残すことで、参加できなかった人や、これから同じ課題に取り組む人にも届けられるようになります。

SusHi Tech Tokyoのセッション動画はこれまでもYouTubeで公開されてきました。しかしグローバルカンファレンスのセッションには英語で行われるものも多く、字幕を追いながら全編を視聴する必要があり、要点の把握に時間がかかります。関心のあるテーマだけを効率よく確認するのも容易ではありません。

テキスト記事であれば、見出しから要点をつかみ、関心のあるセッションだけを選んで読めます。英語セッションの内容を日本語記事にすることで、言語の壁も解消されます。さらに、テキストは検索エンジンや生成AIとの相性がよく、イベント終了後も新しい読者に読まれ続けます。

なぜnoteなのか——テキストを「資産」にするプラットフォーム

これまでイベントやカンファレンスのセッション内容をテキストで残すには、外部メディアに取材や掲載を依頼するか、主催者がイベントレポートをみずから執筆するのが一般的でした。今回の取り組みでは、AI編集アシスタント型SaaS「StoryHubスタジオ」を活用することで制作の負荷を抑えながら、主催者自身のnoteアカウントにセッション記事をストックする新しいモデルを実現します。

生成AIの普及により、AIが検索結果を要約して、ユーザーがWebサイトを訪問せずに情報取得が完結してしまう「ゼロクリック」問題が広がっています。しかしnoteへの生成AI経由の流入は、検索からの期待値の約4倍にのぼります（[ヴァリューズ × note共同調査](#)、2025年10月）。AIに参照されるだけでなく、読者が実際に記事を訪れるプラットフォームです。

noteの記事は約40%が1年後も読まれ続けており（[note社調査、2024年投稿記事対象](#)）、時間が経っても新しい読者に届き続ける特性をもっています。さらに、noteは2026年5月27日より、自動で記事を翻訳する機能の提供をはじめます。日本語で掲載した記事が英語でも読めるようになり、SusHi Tech Tokyoのセッション内容を国内外の読者にも届きます。

今後の展開

今回のSusHi Tech Tokyo 2026を皮切りに、noteはカンファレンスやイベントのセッション記事化を支援する取り組みを広げていきます。テーマを問わず、イベントの知見がテキストとして蓄積され、必要なひとが必要なときに見つけられる仕組みを、イベント主催者やコンテンツパートナーといっしょにつくっていきます。

【参考】 SusHi Tech Tokyo 2026 概要

- 日程：2026年4月27日（月）28日（火）ビジネスデイ / 29日（水・祝）パブリックデイ
- 会場：東京ビッグサイト
- 主催：SusHi Tech Tokyo 2026 実行委員会
- 注力テーマ：AI、Robotics、Resilience、Entertainment
- 開催規模：出展スタートアップ770社、参加者6万人、商談件数1万件（見込み）
- URL：<https://sushitech-startup.metro.tokyo.lg.jp/>

StoryHub株式会社

「価値あるストーリーを共創するハブになる」をミッションに、AI時代のストーリーテリング基盤「StoryHubプラットフォーム」の開発・運営をするスタートアップ企業です。良質なストーリーが豊富に生み出され、流通するためのハブとして、「知ってよかった」と思える瞬間を生み出すことを目指しています。

所在地：東京都港区虎ノ門一丁目10-5 KDX虎ノ門一丁目ビル11階

代表取締役CEO：田島 将太

設立：2022年4月

企業サイト：<https://corp.storyhub.jp/>

note

noteはクリエイターが文章や画像、音声、動画を投稿して、ユーザーがそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォームです。だれもが創作を楽しんで続けられるよう、安心できる雰囲気や、多様性を大切にしています。個人も法人も混ざり合って、好きなものを見つけたり、おもしろいひとに出会えたりするチャンスが広がっています。2014年4月にサービスを開始し、約7520万件の作品が誕生。会員数は1178万人（2026年2月末時点）に達しています。

●URL：<https://note.com/>

●iOSアプリ：<https://itunes.apple.com/jp/app/note-noto/id906581110>

●Androidアプリ：<https://play.google.com/store/apps/details?id=mu.note>

note株式会社

わたしたちは「だれもが創作をはじめ、続けられるようにする」をミッションに、表現と創作の仕組みづくりをしています。メディアプラットフォームnoteは、クリエイターのあらゆる創作活動を支援しています。クリエイターが思い思いのコンテンツを発表したり、メンバーシップでファンや仲間からの支援を受けたり、ストアでお店やブランドオーナーが商品を紹介したり、note proを活用して法人や団体が情報発信をしたりしています。

所在地：〒102-0083 東京都千代田区麴町6-6-2

設立日：2011年12月8日 代表取締役CEO：加藤貞顕 コーポレートサイト：<https://note.jp>

【本件に関するお問い合わせ先】

note株式会社 IRお問い合わせ窓口：<https://ir.note.jp/inquiry>